

Economy & Ecology  
エコノミー & エコロジー



SCREEN

New

# Truepress Jet520

フルカラーバリアブル  
インクジェットプリンティングシステム

エントリーモデル

## 導入コストを抑えた待望の シリーズ機登場！！

<特長>

- ◆ Truepress Jet520の品質機能を継承
- ◆ 高付加価値創出
- ◆ Eco設計による環境対応
- ◆ 業務内容に応じた前後処理装置の選択(OP)
- ◆ 全数・全面ビットマップ検査による品質保証(OP)
- ◆ 業務量に応じてバージョンアップ(OP)



●ダイレクトメール  
圧着はがき(先糊、後ニス対応) etc...



●帳票関係  
OCRドロップアウトカラー  
薄紙ノンカーボン用紙  
保険証券・約款 etc...

●パーソナル出版・小ロット印刷  
パーソナルカタログ・自費出版  
新聞・フリーペーパー etc...



株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル  
VP営業統轄部 VP営業部  
TEL03(3237)3116 FAX03(3237)3203  
ホームページ <http://www.mtjn.co.jp/>

大日本スクリーン製造株式会社

メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー  
〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目  
ホームページ <http://www.screen.co.jp/>

R100



# フォーム印刷

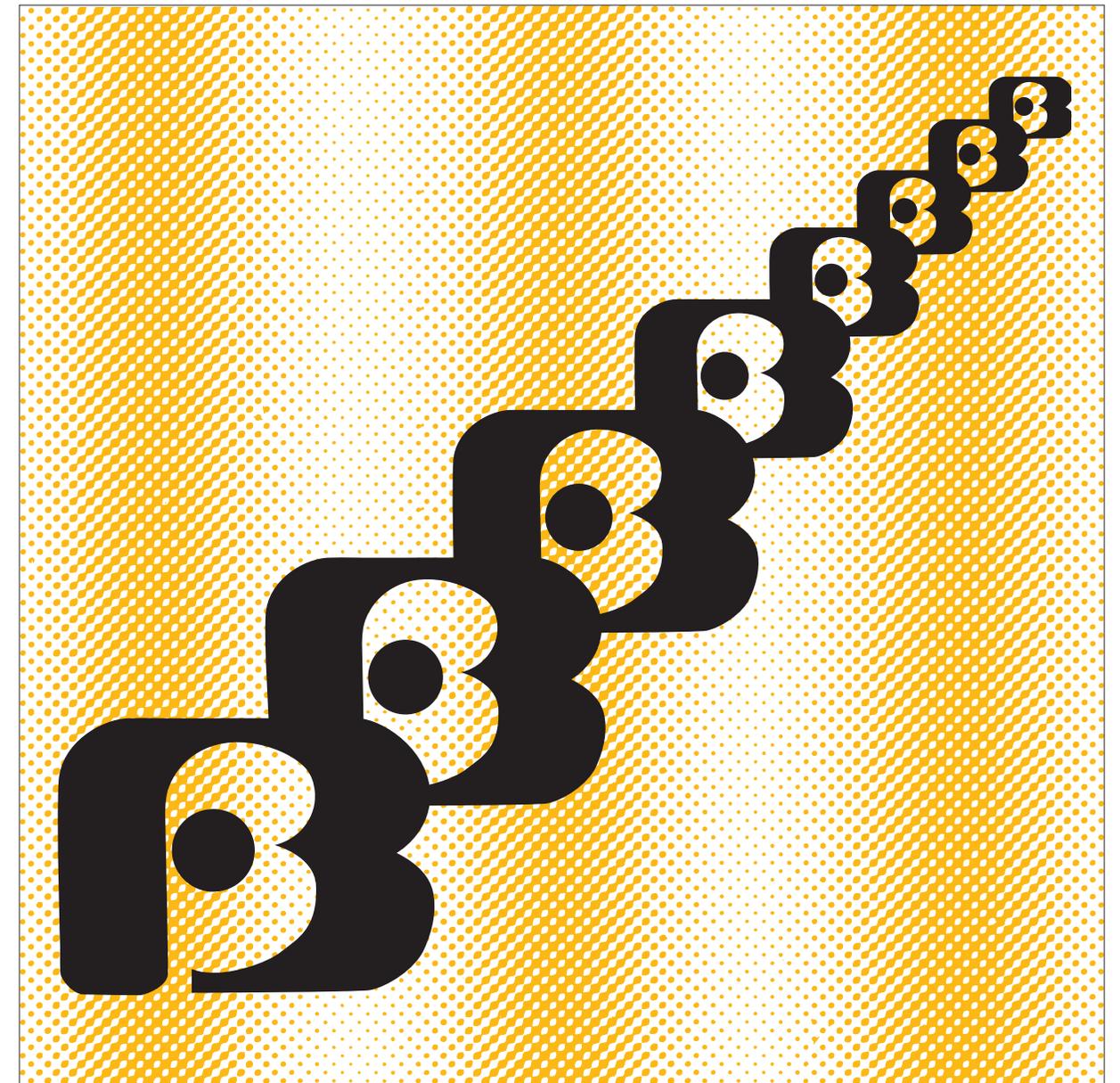


JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館  
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **368**



2011 .7

# QuadTech® ビジネスフォーム プレスコントロール

## 損紙削減・生産性効率改善 クォードテックは利益拡大をお約束します。

クォードテックは31年前 米国の印刷工場から始まりました。  
世界86カ国でクォードテックの製品は活躍しています。



マルチカム自動見当装置



PDF 比較機能付き  
オンライン品質検査装置

製 | マルチカム 自動見当装置 印刷・加工位置合わせ装置 品質検査装置  
品 | 静止画像装置 カラーコントロール装置 ウェブクリーナー

**QuadTech®**  
Our passion is *your success*.™

クォードテック日本支店  
〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷3-11-26  
TEL: 048-839-8831 大阪: 06-6330-0919  
<http://www.quadtech.co.jp>

IGAS ブース E2-40 でお待ちしております。

# B フォーム印刷

目次

日本フォーム印刷工業連合会会報 2011.7 No. 368

日本フォーム工連	平成23年度通常総会及び理事会を開催	2
日本フォーム工連	平成22年度活動報告並びに平成23年度事業計画	3
日本フォーム工連	平成23年度第1回理事会議事要録	9
日本フォーム工連	平成23年度第2回理事会議事要録	10
トピックス	総会記念講演会「知的障害者に導かれた企業経営と私の人生」 日本フォーム印刷工業連合会主催 懇親会を開催 中国印刷技術協会BF印刷分会第十一次年会報告 共催企画「JUNAIOワークショップ」 「平成22年年度版 市場調査報告書」を発刊	13
工業会だより	関東フォーム印刷工業会 平成23年度通常総会を開催 北海道フォーム印刷工業会 2011年度総会及び懇親会を開催 東北フォーム印刷工業会 平成23年度定期総会と情報交換会を開催 中部フォーム印刷工業会 平成23年度定期総会と記念講演会を開催 関西フォーム印刷工業会 平成23年度定期総会を開催 大阪支部4月度・6月度例会を開催 西中国フォーム印刷工業会 平成23年度総会を開催 九州フォーム印刷工業会 平成23年度定期総会を開催	17
INFORMATION	国際委員会 北米印刷事情レポート (2011年4月～6月)	23

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

## FCリスコート H-17 BFシリーズ

特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御</li> <li>☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい</li> <li>☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制</li> </ul>
	<b>富士薬品工業株式会社</b> FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD HP URL <a href="http://www.fc-fuji.co.jp">http://www.fc-fuji.co.jp</a>
	本 社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10 TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205 大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1 TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

## TOYOINK

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ

### FD フォームXシリーズ

東洋インキ株式会社 RC事業統括部 〒104-8378 東京都中央区京橋2-3-13 Tel: 03-3272-7693 <a href="http://www.toyoink.jp">www.toyoink.jp</a>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高い硬化性 UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。</li> <li>■広い水幅 水を上げてても良好な印刷適正を実現。</li> <li>■優れた転移性 着肉を向上し印刷濃度をアップ。</li> <li>■紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。</li> </ul>
---	--

## 平成23年度通常総会並びに理事会を開催

日本フォーム印刷工業連合会(小谷達雄会長)は6月16日、目白・椿山荘「マーズ」に於いて平成23年度通常総会を開催した。

冒頭挨拶で小谷会長は「例年ですと少し規模の小さい通常総会を開催していますが、今年度はより多くの会員の方々にお集まり頂きたいと思ひ、通常総会後には講演会と懇親会を開催することにしました。懇親会には来賓として経済産業省の方々や、中国関係の方、今まで講師を



小谷会長 挨拶

して下さった先生の方々など多くの方々にお出で頂き、総勢130名が参加の予定です。震災で大変ご苦労されている東北からは、佐久間会長はじめ多くの方々も参加頂いておりますが、震災の復旧に出来る範囲でご支援致したいとともに、自粛ではなく出来る限り平常の団体活動に戻したいと思っている」と述べた。

引き続き審議に移り、第1号議案「平成22年度事業報告並びに収支決算報告承認の件」、第2号議案「平成23年度事業計画案並びに収支予算案承認の件」、第3号議案「役員の一部改選の件」を審議し、いずれも満場一致で承認した。

平成23年度業務計画の方針として、業界基盤の整備と体質強化を図り、広く印刷産業全般の総合的發展を図るため、委員会活動を中心として諸施策を実施していく。

業務委員会では、地区工業会との交流を深め、会員増強と活動の活発化を図るため、企業経営に関するセミナーを開催していく。

資材委員会では、用紙事情調査を継続実施するとともに、資材知識向上のための施設見学会やセミナー等を企画する。

国際委員会では、海外フォーム印刷事情についての情報を会員に提供し、海外団体や企業との交流を図っていく。

市場調査委員会では、市場動向を調査分析し、調査報告書を通じて、会員へ事業方針策定資料として提供していく。平成23年度についてもアンケート調査を実施し、報告書の作成と報告会を実施していく。

また、総会後に開催した平成23年度第3回理事会においては、人事異動により辞任される常任理事の後任として、大久保隆司様、杉山悟様の2名を承認した。

- 総会議案
- 第1号議案 平成22年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
  - 第2号議案 平成23年度事業計画案並びに収支予算案承認の件
  - 第3号議案 役員の一部改選の件

- 理事会議案
- 第1号議案 常任理事の選任に関する件
  - 第2号議案 委員会委員の委嘱に関する件

出席者28名(委任状12名 理事数38名)

会長 小谷達雄

副会長 瀬戸良教

常任理事 小谷正嘉、中村伸治、神崎徳三、玉田健治、岡田正明、福田学、佐藤泰光、佐久間信幸、松尾富正、清水順市、灘和憲、和田秀一郎、佐々木慎一

理事 福武正廣、石坂満、坊野喜彦、玉井敏晴、田中久義、滝本正明、溝口剛司

監事 西川元祥、吉澤啓

理事候補 大久保隆司、杉山悟

会員 郡寛二

専務理事 山口実



## 平成22年度日本フォーム印刷工業会事業報告

### ◆常設委員会活動

小谷新会長のもと、平成22年度の事業計画に基づいて活動を行ってきたが、年度末の3月11日に発生した東日本大震災並びに福島第一原発の事故、さらに電力需給問題による計画停電や諸資材の供給不足など、未曾有の状況に見舞われ、忘れることができない年度となった。

常設委員会では、それぞれの事業計画に基づき委員会活動を展開した。

### ◆業務委員会(業務委員長 小谷正嘉)

平成21年度事業報告書、決算報告書、平成22年度事業計画(案)、収支予算(案)を作成し理事会の審議を経て平成22年度通常総会に上程、承認を受けました。毎月の収支については、月次計算書を作成、理事会に報告し承認を得ました。

・業務委員会と関東フォーム印刷工業会との協賛で、7月17日(土)の午後に開催した勉強会「『見える化』による業務改善」では、(株)資産工学研究所の坂本善博氏よりファシリテーションを行いながら、業務の『見える化』に取り組む手法の指導がありました。また、事前勉強会を行って頂いたカワセコンピュータサプライ(株)の小泉佳一氏からは取り組みについての成果発表があり、より実践的な勉強会になった。さらに、この勉強会以後も、継続して「『見える化』による業務改善」に取り組まれている会員も数社あり、足が地に付いた良い研修の機会になりました。

・業務委員会主催の講演会「映画『降りてゆく生き方』人をつなげる映画制作の軌跡」を8月26日に目白・椿山荘で開催し、約100名の会員及び特別会員が参加した。

この映画をプロデュースした弁護士の森田氏は講演で「今の時代に大切なことは原点に帰って人と人のつながりを取り戻すこと。複雑化する世の中で本当に大切なものが見えなくなっている。余分なものを全て手放し、最後に残ったものに立脚し、歩みを進めることによって多くのものが見えてくる。金儲けのためでなく、本気で勝負することで消費者に感動を与え、強いつながりが生まれ、ビジネスに展開している」と語った。

- ・5月25日、平成22年度中部フォーム印刷工業会の定期総会に合わせて開催された記念講演会に、講師として法政大学大学院の坂本光司教授を紹介。坂本教授は「日本でいちばん大切にしたい会社2」をテーマに講演され、「会社の好不況は、社員のモチベーションのレベルで決まる。経営者の使命は業績を高めることではなく、全社員のモチベーションを高めること。業績を高めるのは社員の仕事です」と経営のあるべき姿を説いた。
- ・平成23年1月27日 第8回理事会に合わせて、(社)心学修正舎理事の後藤三愚氏を講師に新春講演会「取り戻そう！日本人の忘れていた心と知恵」を開催。江戸時代に京都の町家を借りて町人庶民に「席銭はいりません、お望みの方は奥へどうぞ、女性もどうぞ」と行灯を出して、正直・節約・勤勉と三徳の「商人の道」を説いた石田梅岩の「石門心学」について学んだ。
- ・会報「フォーム印刷」363号～366号を発行。また、毎月ホームページを更新し、フォーム工連の活動内容および関連情報を広報した。
- ・業界またはフォーム工連運営に大きな影響のある課題について、速やかに方針と施策を打ち出すため、「工連運営会議」を4回開催した。

#### ◆資材委員会(資材委員長 中村伸治)

用紙需給状況、景気指標、製紙産業景況感調査等を調査し毎理事会へ報告すると共に、会報、ホームページ等を通じ会員へ周知した。

印刷インキ、段ボール原紙等の印刷資材についても需給動向を毎月理事会で報告した。

当初企画していた施設見学会については、震災等により実施時期を失って実行する事が出来なかったため、次年度に計画することにする。

#### ◆国際委員会(国際委員長 玉田健治)

米国BF関連情報のレポートを作成し、毎理事会に報告した。

5月20日～26日にイギリス・バーミンガムで開催された「IPEX 2010」の展示会視察とロンドン近郊の「Communis社」と、電気・ガス・水道などのユーティリティ、通信、金融および小売業の顧客や、官公庁向けにITサービスを提供している「Fujitsu Service社」を見学するツアーに8名が参加。

7月28日に開催した国際委員会主催セミナー「フォーム業界から見たIPEX 2010」には約70名が参加して開催された。フォーム工連主催の視察ツアーに参加した6名が報告に立ち、デジタルプリントを中心とした展示面積が約40%に達し、従来印刷の展示面積を追い抜いた。有版から無版へ、アナログからデジタルへ、という流れがさらに加速されることを予感させる展示会であったと報告した。

7月4日～8日に中国上海国際印刷・包装・製紙産業総合展視察と、中国印刷協会成立30周年記念大会及び中国印刷技術協会BF印刷分会との交流を行うため12名が参加した。上海エターナル印務有限公司で開催した「日中ビジネスフォーラム印刷業界交流懇談会」では中国BF印刷分会代表団、中華印刷科学技術学会(台湾)、日本フォーム工連を合わせて41名が参加して交流を深めた。

日本で殆ど見ることが出来ない中国のビジネスフォーム製品を、中国印刷技術協会BF印刷分会のご厚意により、会員の10社から約200点の製品を送付して頂き、平成23年2月2日から3日間、サンシャインシティコンベンションセンターで開催された“PAGE 2011”にて日本フォーム工連事務局ブースで展示し、大きな反響があった。

#### ◆市場調査委員会(市場調査委員長 岡田正明)

業界紙にも取り上げられ、内容の充実した資料となっている「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」の平成22年度版を発行すべく、全会員に対してアンケートを実施した。今回は非常に回収率が低く、また、震災等の影響で報告書の発行が遅くなったが、平成23年5月に発行になった。

平成23年2月に日本印刷産業連合会で実施した「印刷産業ビジョンに関するアンケート」への調査協力を行う。

印刷市場を拡大するメディアミックスのツールとして、metaio社のフリーライセンスのAR(拡張現実)ツールをサンシャインシティコンベンションセンターで開催された“PAGE 2011”にて日本フォーム工連事務局ブースでデモ展示を行う。

#### ◆技術委員会(技術委員長 丹羽喜一)

10月29日開催の技術セミナー第一部「iPad・タブレット端末の未来」、第二部「人に判り易いコミュニケーションデザイン」を会員約80名が参加し開催した。

第一部の講師の郡司氏は「業界ではiPadを電子書籍端末として騒がれているが、新しいコミュニケーションツールであり、動画配信との融和性が非常に大きい」と述べ、実際にiPadを持ちこんで電子書籍以外の営業支援ツール、教育分野、医療系分野など様々な活用事例を紹介。第二部の講師の八杉氏からはコミュニケーションデザインとして、企業の情報を「見やすく、わかりやすく、伝わりやすく」改善し支援している事業活動を報告した。

印刷市場を拡大するメディアミックスのツールとして、池袋のサンシャインシティコンベンションセンターで開催した“PAGE 2011”にてデモ展示したmetaio社のフリーライセンスのAR(拡張現実)ツールについて、サイバーネットシステム(株)と共同で平成23年3月に東京と大阪でワークショップの開催を企画。しかし、3月11日に発生した東日本大震災の影響でやむ無く中止した。次年度に再度ワークショップの開催を企画する。

#### ◆環境委員会(環境委員長 神崎徳三)

グリーンプリンティング認定工場取得の会員を増やすための活動を中心に実施。今年度から実施された資機材認定制度(洗浄材、H液添加)についての対応を協議した。

ユーザー向け資料として「ECO発注にご協力ください」のパンフレット雛形を作成し、理事会での説明の後、会員に対して配布を行った。

印刷産業環境優良工場表彰について会員企業へ応募促進の働き掛けを行い、新応募制度になった事もあり、日印産連全体では92工場が応募されフォーム工連からも5工場が応募。結果、小林クリエイト(株)安城工場が「日印産連会長賞」を受賞する。

日本印刷産業連合会としての取り組みである「地球温暖化対策の自主行動計画」及び、「循環型社会形成の自主行動計画」へ積極的に参画した。

#### ◆総会・理事会

平成22年度は、通常総会1回、理事会9回を開催し、重要事項の報告、審議・決定を行い、概要を会報、ホームページ等を通じ随時会員へ報告。

#### ◆平成22年度通常総会

平成22年6月8日、東京都中央区「ホテル銀座ラフィナート」において通常総会を開催し、秋山正法会長が議長となり以下の議案を審議し原案通り承認。

第1号議案 平成21年度事業報告並びに収支決算報告承認の件

第2号議案 平成22年度事業計画案並びに収支予算案承認の件

第3号議案 任期満了に伴う役員改選の件

通常総会に引き続き開催した理事会において、小谷達雄会長が議長となり、以下の議案を審議、原案通り承認されました。

第1号議案 会長選任の件

第2号議案 副会長、専務理事、常任理事指名の件

第3号議案 委員会委員委嘱の件

第4号議案 顧問委嘱の件

#### ◆理事会

平成22年度は9回の理事会を開催し、事業計画に基づいた委員会活動、日本印刷産業連合会事業活動、各地区工業会事業活動報告を受け、業界課題の共通認識を図り、重要事項について審議・決定した。

第1回 平成22年4月8日 於 日本印刷会館

第2回 平成22年5月13日 於 日本印刷会館

第3回 平成22年6月8日 於 ホテル銀座ラフィナート

第4回 平成22年7月8日 於 日本印刷会館

第5回 平成22年9月15日 於 ホテルニューオータニ

第6回 平成22年10月14日 於 箱根 小涌園

第7回 平成22年11月11日 於 日本印刷会館

第8回 平成23年1月27日 於 椿山荘

第9回 平成23年3月10日 於 日本印刷会館

#### ◆その他

前日本フォーム印刷工業連合会会長の福田泰弘氏(現日本フォーム印刷工業連合会顧問)は、5月11日に「旭日中綬章」の伝達を受け、皇居に参内して天皇陛下に拝謁。

日本フォーム印刷工業連合会は、昭和40年に任意団体として「フォーム印刷協議会」が創立され、今回の叙勲で申請団体として認められたことは大変意義のある事と思う。

#### 日本フォーム印刷工業連合会

### 平成23年度日本フォーム印刷工業連合会事業計画

業界基盤の整備と体質強化を図り、広く印刷産業全般の総合的發展を図るため、平成23年度は以下の項目を重点的に推進する。

#### 1. 日印産連事業活動へ積極的に参画する

- ・主要構成員として、日印産連事業活動へ積極的に参画し、企業の社会的責任と印刷産業全般に亘る課題の解決に取り組み、理事会、広報を通じ会員への周知と啓蒙を図る。
- ・日印産連が主催するセミナー、報告会他各種行事への参加を積極的に進め、知識の共有と交流を図る。

#### 2. 委員会活動及び理事会により、課題の討議と諸施策を計画し実施する。

##### (1) 業務委員会

地区工業会との交流を深め、会員増強、工業会活動活性化の具体策を検討、実施します。特に大きな被害に見舞われた東北フォーム印刷工業会所属の各会員に対しての支援と援助を継続的に行う。

—会員に対して企業経営に関する講演会・セミナーを最低年4回実施

—地区工業会と協議して講演会及びセミナーを各地区でも開催広報活動の充実を図ります。

—各種情報をタイムリーにホームページに掲載し広報する

—会報定期発行(4回/年)

—PAGE 2012への出展(2012年2月予定)

業界の重要課題を各委員会と連携して抽出し、年4回開催する工連運営会議での迅速な方向付けを図る。

##### (2) 資材委員会

用紙事情調査を継続実施し、理事会等を通じ資材動向を周知する。

会員会社社員の資材知識向上のため工場見学・セミナー等企画する。

用紙以外の諸資材に関する課題検討も行う。

—インキ及び補助材等に関する勉強会やセミナーを開催

### (3) 国際委員会

海外フォーム印刷事情を調査、分析し、理事会報告を通じ会員へ周知する。

—米国レポートの継続掲載

—ビジネスフォームを中心に各種海外情報の公開海外企業、団体との交流を図る。

—中国BF印刷分会との交流（5月、10月を予定）

—ラベルエキスポ2011（6月ベルギー）

### (4) 市場調査委員会

市場動向を調査分析し、調査報告書等を通じ会員への事業指針を提示。

—アンケート調査を実施

—調査結果の分析と報告書の作成

—市場における業界共通課題抽出

### (5) 技術委員会

技術面から見た業界の進む方向を協議し、必要テーマについてセミナー、見学会等を企画実施します。

—主催及び共催セミナーを実施

—業態変革に関わる技術に対してタイムリーな時にタイムリーな内容のセミナーを実施  
エネルギー削減分野に着目し、電力削減機器や新技術情報の共有化を図る。

### (6) 公正取引推進委員会

独禁法遵守と啓蒙の為の諸施策を推進

—各委員会の施策及び成果物について適法性確認する。契約、積算基準の適正化を推進

—経済調査会等印刷価格調査に協力

### (7) 環境委員会

GP工場認定、第三者認証制度の普及啓蒙と認定・認証の取得しやすい環境作り、情報提供を通じ取得支援を行います。

—認証取得支援情報の提供

印刷産業全体で進めるCO2削減活動、廃棄物削減活動（地球温暖化対策・循環型社会形成の自主行動計画）を推進します。

—日本印刷産業連合会の自主行動計画へ参加

—CO2削減、廃棄物削減の実態把握と情報共有

### (8) 理事会

業界及び工連運営に関わる重要事項を協議決定する理事会を定期開催し、会報及びホームページ等を通じ会員に周知する。

業界の発展、社会貢献の方向性を探る政治経済動向、社会的責任課題等についての理事研修会を理事会開催に併せて実施する。

## 日本フォーム印刷工業連合会 平成23年度 第1回理事会議事録

■平成23年4月14日(木) 午後1時30分 日本印刷会館2階201会議室

■出席者（21名）

小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、高宮(丹羽常任理事)代理、神崎常任理事、玉田常任理事、佐々木(岡田常任理事)代理、福田常任理事、佐藤常任理事、杉山(松尾常任理事)代理、清水常任理事、和田常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

議 題 (1) 理事候補者の紹介

(2) 委員会報告

(3) 日本印刷産業連合会等関連報告

(4) 各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

「小谷会長挨拶骨子」

前回の理事会が東日本大震災の前日であったが、大きな被害を受けられた東北各県の皆さんに心からのお見舞いを申し上げたい。一か月を過ぎて東北の復興は原発事故を含めて大変な状況にありますが、私達は支援を行うとともに出来るだけ正常の経済活動に戻す努力も必要のように思います。

京都には「晴れとケ」という言葉がある。「晴れ」は「晴れ着」の「晴れ」、「ケ」は難しい漢字なので「ケ」と書くが「日常の事」。京都人はいつも祇園で舞妓さん芸子さんと遊んでいると思われるが、そのような事はたまにしか行きません。これが「晴れ」の場です。殆どが「ケ」の日常です。京都人はこの「ケ」の日常も大切にしています。京都の日常の食事の「おばんざい」も手が込んでいて大変美味しい。

幸い災害の影響が少ない地域においても、まだまだ電力や紙の供給が十分でなく苦勞が多いですが、こういう時こそ、日常に戻すことが大切なことと思います。

#### 理事候補者の紹介

団体規約により役員の任期は2年で、平成24年度通常総会の日までとなっているが、期中に会社都合等により辞任される方々が中部フォーム印刷工業会並びに関東フォーム印刷工業会に居り、新任役員の候補者として推薦された。

杉山 悟氏 中部フォーム印刷工業会会長

(小林クリエイト(株) 執行役員名古屋支店長)



大久保 隆司氏

(共同印刷(株) 取締役 ビジネスメディア事業部長)

#### 委員会報告

##### ●業務委員会

- ・3月24日に開催した東日本大震災対応会議について報告。
- ・3月度月次計算についての報告。
- ・電力削減計画アンケートについての報告。
- ・東北フォーム印刷工業会へ対しての「地区強化費」取扱いについて協議。
- ・平成23年度年間計画(案)一部変更を提案。

##### ●国際委員会

- ・3月度米国レポートの報告。

##### ●技術委員会

- ・電力削減対応について報告。

##### ●環境委員会

- ・環境優良工場応募表彰応募について説明。

#### 日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1) 東日本大震災に関する件
- (2) 日産連・平成23年度事業計画概要・収支予算(案)
- (3) 第19回GP認定工場一覧

- (4) 第10回印刷産業環境優良工場表彰制度について
- (5) 循環型社会形成パンフレット配布
- (6) 「印刷業の省エネルギー対策」パンフレット配布
- (7) 「9月印刷の月『2011年印刷文化典』」PRポスターデザイン募集

#### 各フォーム印刷工業会からの報告

##### 関東フォーム印刷工業会報告（瀬戸会長）

震災後開催した理事会では予定を変更し、用紙・インキ関係・設備関係の特別会員を招いて、緊急の震災対応会議を開催した。例年6月の日本フォーム工連の通常総会に合わせて開催していたゴルフ親睦会は中止する事を決定した。

##### 北海道フォーム印刷工業会報告（佐藤会長）

今回の東日本大震災で北海道では太平洋沿岸の漁業施設が約340億円の被害を受けた。最近北海道は観光産業に依存しているが、アジア圏からの旅行者が半減している。

ノーカーボン紙の約85%の生産を三菱製紙の勿来工場に依存しているが、勿来工場の操業が止まっているので、現在は各倉庫にある在庫で対応する。

4月28日に今年度の総会を開催するが、毎年参加頂いている代理店はすべて欠席される。

##### 中部フォーム印刷工業会報告（杉山会長）

震災の直接的被害はないが、自動車産業を中心に経済状況が大変疲弊している。またノーカーボン紙を中心に不足感が発生している。

中部工業会では役員の変更があり、今まで会長

として頂いた松尾様が顧問、事務局をされている三枝様が理事に就任する。

##### 関西フォーム印刷工業会報告（清水会長）

昨日東京に着いて、地下鉄駅の節電対応に驚いた。4月の理事会では紙の問題について情報交換を行った。今後の活動として5月19日の総会に合わせて講演会を予定していたが、講演会を中止して、この費用を義捐金とする予定。エコ発注を促進のための施策として、今回ティッシュを作って各ユーザー担当に配布する計画を立てた。

##### 九州フォーム印刷工業会報告（和田会長）

九州地区でもノーカーボン紙を中心に特殊紙の入手状況が良くない。3月12日に九州新幹線が全線開通し、活性化の起爆剤になる事を期待しているが、この震災で九州地区から何が発信できるかを考えてみたい。

最後に瀬戸副会長より閉会挨拶があった。

##### 「瀬戸副会長挨拶骨子」

今回の震災に会われた方々に対してお見舞い申し上げますとともに、早い復旧を願っています。

この地震に伴う電力不足は一時的なものではなく、長期的な課題となると思う。そこで、省電力、省エネルギーの対応については各社が知恵を絞って、電力不足に取り組んで行かねばならないと思う。

次回の平成23年度第2回理事会

開催日 平成23年5月12日(木)

時間 午後1時30分より

場所 日本印刷会館2階 201会議室

を確認して閉会となった。

##### 「小谷会長挨拶骨子」

昨日で大震災から2カ月が経ち動き初めてはいるが、まだまだの状況である。今日は東北から佐久間会長にもおいで頂いているが、復旧に向けて業界全体でしっかりやりたい。科学的に高速道路で車間をつめると渋滞するとの事で急がば廻れが通用する。また、震災時の都心でも帰宅難民で溢れ、コンビニでは商品が直ぐに無くなって、コンビニの使命の便利さは全く機能しなくなった。この時、個数を制限して売る体制をいたしたら、より多くの人にコンビニの便利さを共有できたのではないと思う。災害対応であれ、セキュリティーであれ、体制を整えるにはお金がかかるが、顧客にきちっとした対策を提案し、価格の競争以外で顧客に貢献すべきと考える。このような提案を業界として皆さまと協力して、実施して行きたい。

#### 平成23年度通常総会開催報告

平成23年度通常総会議案書にて報告する平成23年度事業報告、及び決算報告についての事前説明を行う。

#### 委員会報告

##### ●資材委員会

・4月度及び5月度用紙事情について報告

##### ●業務委員会

・4月度月次計算について

・東北フォーム印刷工業会地区強化支援報告

・平成23年度通常総会・第1回講演会・懇親会の開催について報告

・平成24年度税制改正等要望事項について説明

##### ●国際委員会

・4月度米国レポートの報告

・中国印刷技術協会ビジネスフォーム印刷分会の年次大会参加について報告

##### ●市場調査委員会

・市場調査アンケート結果を毎年発行している「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」で報告予定。5月中発行で準備

##### ●技術委員会

・サイバーネット(株)及びmetaio社との共催セミナー「JUNAIOワークショップ」開催の案内



#### 日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1) 節電対応に関する資料
- (2) 平成22年度日印産連事業報告並び収支決算資料
- (3) 平成23年度 日印産連表彰推薦について
- (4) グリーン基準関連の規定及び基準改定等について
- (5) ISO/TC130 WG11国際会議報告
- (6) 東日本大震災の被害者等の就労支援・雇用創出の推進について

#### 各フォーム印刷工業会からの報告

##### 関東フォーム印刷工業会報告（瀬戸会長）

関東は5月19日に通常総会と懇親会を椿山荘で行う。しかし、例年日本フォーム工連総会の日程に合わせて行っていた春のゴルフ懇親会は中止にする。いつも日本フォーム工連と合わせて様々な企画を行っているため、関東独自の開催が難しい。支部活動も活性化のために、4支部を2支部に統合したが、大所帯になった事で集まり難い面も生じてしまっており、今年度の活動で様子を見たい。

##### 東北フォーム印刷工業会報告（佐久間会長）

震災に際しては大変なご心配と支援を頂き感謝する。当初は各社の状況確認が中々連絡が取れなかったが、2カ月経ってやっと把握出来た。会員各社も自社の被害総額がどのくらいになるかについては掴めていない。

会員の社員は全員無事であったが、数名家族の方が被害に遭われている。まだまだ余震が続いており、宮城県では3月11日の震災より4月7日の余震の被害の方が大きく、やっと修復して立ち上げようとした所で一からやり直しとなった。笹氣

### 日本フォーム印刷工業連合会 平成23年度 第2回理事会議事録

■平成23年5月12日(木) 午後1時30分 日本印刷会館2階201会議室

■出席者 (22名)

小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正)常任理事、中村常任理事、丹羽常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、佐々木(岡田常任理事)代理、佐久間常任理事、杉山(松尾常任理事)代理、清水常任理事、灘常任理事、小島常任理事、和田常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、石坂理事、滝本理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

- 議 題 (1) 平成23年度通常総会開催報告  
(2) 委員会報告  
(3) 日本印刷産業連合会等関連報告

- (4) 各フォーム印刷工業会からの報告  
議 事 冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った。

## 総会記念講演会 「知的障害者に導かれた企業経営と私の人生」を開催

日本フォーム印刷工業連合会業務委員会(小谷正嘉委員長)は6月16日、東京・目白の椿山荘において「平23年度第1回講演会」を開催し、会場には会員のほか、一般からの申込者を併せ130名が聴講された。

今回は、法政大学大学院教授の坂本光司氏のベストセラー著書「日本でいちばん大切にしたい会社」で冒頭に紹介され、テレビ東京「カンブリア宮殿」にも出演した大山泰弘氏(日本理化学工業(株)代表取締役会長)を講師に迎え、「知的障害者に導かれた企業経営との人生」を演目に、約1時間半にわたり講演が行われた。

日本理化学工業社は、身体に害のないカルシウム製チョークを製造しており、業界ではシェアトップを誇っている。従業員の8割近くが知的障害者で、そのうち約半分の社員が重度の障害を持つという。大山氏は、昭和34年に近隣の養護学校から知的障害を持つ生徒の雇用を依頼されたことからはじまった、同社の障害者雇用の理念、そして会社が人を育てるのではなく、人が会社を育てる、という企業経営のあり方を語った。

私が障害者雇用を始めたころ「障害者は施設に入っていた方が楽でいい」と考えていた。しかし、あるとき僧侶から人間の喜びは「人から愛されること」「人に褒められること」「人の役に立つこと」「人に必要とされること」だと諭され、「彼らも人の役に立ちたいのだ」と気づいた。



講演会の風景



講師 大山泰弘氏

また、ハンガリーの新聞記者が取材に来たとき「障害者も仕事ができるのは、日本が職人文化を持っているからだ」と指摘を受けた。人に仕事を頼む時は、彼らの理解力に合わせ丁寧に教え、それでも分からなければ、さらに分かりやすい方法を考える。そしてできた時は褒めてあげることが大切だ。

現在、日本では障害者施設で一人の障害者に年間500万円を使っている。しかし、国が障害者を雇用する企業に最低賃金を保証すれば、年間150万円で済み、彼らは自活できる。なにより彼らの両親が喜ぶだろう。私は小さなチョーク会社の会長にすぎないが、このような共生社会を作りたいという思いを持てたのは、障害者のおかげだ。

そして、障害者雇用の日本理化学に子育て文化に貢献するキットバスを神様が用意して下さったと、ホワイトボードにキットバスで描いて実演をされた。

参加者全員には講演会のお土産として「キットバス」を、さらに、大山会長の著書「利他のすすめ」「働く幸せ」、そして、坂本光司教授の著書「日本でいちばん大切にしたい会社」を販売した。

本を購入された方々は講演を終えられた大山会長からサインを頂くため、長い列ができていた。

「キットバス」に関する情報及び購入は日本理化学工業(株)のホームページにアクセスして見て下さい。また、「キットバス」を使ったウインドー・ギャラリーは上野御徒町にあります和カフェ「めぐり」で見ることが出来ます。お近くにいらした時は立ち寄って見て下さい。

<http://www.rikagaku.co.jp/>

出版印刷様や、仙台の工業団地の各社を訪問したが、直ぐ手前まで津波が押し寄せて酷い状況です。

今年の総会は出来ないと思っていたが、各社の復旧が早く、とりあえず集まろうとの声から、仙台で総会と情報交換会を全会員が参加して開催する予定。街は少しずつ復旧して、東北の底力を発揮しているが、被害に遭われなかった地域での過度の自粛は辞めて欲しい。一刻も早く通常経済に戻って欲しいというのが東北からの願いである。

東北でも紙がない、仕事がないと厳しい状況ですが、会員各社は約2週間の休業で正常の生産活動に戻っています。今回の震災の教訓として、各社では避難マニュアルとか連絡方法等を決めていると思うが、一切役に立たなかった。一切緊急の持ち出しは出来なかった。早かったのは携帯電話のメールで、今後は緊急連絡網として携帯電話のメルアドの登録を勧めたい。今回の経験を活かしてまとめて、皆さんのお役に立ちたい。

### 中部フォーム印刷工業会報告(杉山会長)

5月25日に定期総会と講演会を開催するが、懇親会については参加辞退者も多く中止とする。中部圏では直接の被害はないが、浜岡原子力発電所の稼働中止などの影響が今後予測される。

### 関西フォーム印刷工業会報告(清水会長)

5月19日に総会を開催予定であったが、講演会と懇親会は中止して、東北フォーム印刷工業会への支援に振り向ける事にした。

関西地区も用紙がひっ迫した状態ではあるが、今後の見通しなどの情報が中々入らない。用紙がないので上海で探してサンプルを取り寄せたが、紙粉の問題で日本での印刷は難しい。また、APP社の用紙も国内品質を基準に比較すると使用が難しい状況にある。

### 西中国フォーム印刷工業会報告(灘副会長)

5月27日総会を行い、今年度も副会長2名体制を敷き、宇都宮副会長のセイコービジネス様に事務局をお願いして活動する。西中国も紙がない、インクがないとの状況ではあるが、仕事の量も少ないのでなんとかなっている。

### 四国フォーム印刷工業会報告(小島会長)

用紙の状況は特殊紙が入らないで苦慮している。6月に総会予定であるが、四国フォーム印刷工業

会の会員は5社で、その内フォーム印刷の専業は3社で、会員の維持が大変厳しい状況である。近い将来、比較的会員数の多い西中国と一緒になる等、地区の再編成を行う必要を感じている。

### 九州フォーム印刷工業会報告(和田会長)

九州では5月24日に総会開催を予定している。用紙については特殊紙が入りにくい状況で、3月・4月は乗り切っているが、連休明けは厳しくなる。現在フォーム印刷専業の4社と、地元の印刷業者3社を加えて7社ですが退会要請を受けている。九州地域への観光客も激減し、九州経済も大変な状況にある。

最後に櫻井副会長より閉会挨拶があった。

### 「櫻井副会長挨拶骨子」

フォーム工連の活性化に向けて努力しているが良い状況にならない。これは市場のせいには出来ないと思う。いつも前年比でもの事を見えませんが、資材委員長から長期間にわたる用紙の低迷の説明があったが、我々は長期の状況を理解しなければならない。中国にビジネスに行けば良いかというそうではない。中国もビジネスフォーム業界が低迷している。情報用紙国内出荷量は04年度を最高に100万トン減少している。数年前の状況と、今現実に行わなければならない事は、大きく違ってはならない。国際委員会の報告では、ネットと印刷業界の戦いは既に終わったと報告があり、印刷業界は一発の弾も打つ事が出来ずに、沈んでしまっていると述べている。我々はここで1発でも、2発でも弾を打たないといけない。ぜひ、狙いを定めて打ちたい。

冒頭の挨拶で小谷会長から、車間距離の話があったが、このまま車間距離をつめて戦っていると、2015年には業界の利益率は今の1/5になるとコンサルタントが話している。交通規則を守って走っていきたくており、フォーム工連の活性化のために頑張っていきたい。

### 次回の平成23年度通常総会・第2回理事会

開催日 平成23年6月16日(木)

時間 午後2時30分より

場所 目白 椿山荘「マーズ」(タワー棟4階)

を確認して閉会となった。

## 日本フォーム印刷工業連合会主催 懇親会を開催

平成23年度通常総会を記念して、日本フォーム印刷工業連合の主催としては初めての懇親会を6月16日に椿山荘「マーガレット」で開催した。

開催の挨拶に立った小谷達雄会長は「悪い時に良いことが始まり、良い時に悪いことが始まる。今は悪い状況にあるが、すでにいろいろなところで良い状況が始まっていると信じている。今年度は大変なスタートとなったが、精一杯活動していきたい」と力強く抱負を表明した。

また、来賓から経産省メディアコンテンツ課の高橋聡課長補佐は「震災支援は継続しなければならないが、商売を回さないと日本経済は立ち上がらない。風評被告、買い控え、自粛を早く取り除いて、東北、ひいては日本経済が震災前以上になるよう政策を採っていくので、経済の復活・復興の一翼を担っていただきたい」と印刷業界への期待を語った。

今回、東北フォーム印刷工業会から多数参加され、代表として佐久間伸幸会長が登壇し「私たちは一所懸命に頑張っているが、お客様がなかなか元

に戻らず、厳しい状態。“白粛”はお止めいただき、通常の活動を行い、盛り上げていただくことが一番の応援になる」と挨拶された。

今後とも団体として通常活動への取り組みと、継続的な支援を続けて行きたいと思います。



挨拶する  
小谷達雄会長



挨拶する  
高橋聡課長補佐



東北フォーム印刷工業会からの参加者



懇親会の風景

## 「中国ビジネスフォーム印刷分会」 第十一次年會に参加

5月30日～31日に山東省済南で開催された「中国ビジネスフォーム印刷分会」第十一次年會に専務理事の山口が参加した。

「中国ビジネスフォーム印刷分会」は中国印刷技術協会に所属し、事務所を上海に構えて約300社が加盟している団体である。今回の年會には約600名

の参加応募があり、昨年度の事業報告と今年度事業施策を発表、さらに様々な講演が2日間行われ、約500名が参加された。昨年と同団体との交流と情報交換が始まり、今回は「BF印刷の持続的発展」をテーマに加盟各社から発表があり、日本からも「日本の現状と展望」について報告した。

中国のBF印刷業界も伝票の電子化や、インターネットの急速な普及を受け、06～07年以降は成長が減速し、マイナス成長の企業も生まれてきている。そこで、BF業界の継続的な発展のための施策について、様々な取り組みについて加盟各社からの報告があった。

今年の4月に広州で開催された“PRINT CHINA”では、印刷機が飛ぶように売れたと聞いているが、今回の報告と大きな乖離があり、中国の現状を捉える難しさを感じた。

大会の最後には、中国ビジネスフォーム印刷分会が調査し、2010年の売上が1億元（約13億円）以

上の企業25社を選抜し「中国ビジネスフォーム印刷25強企業」として発表された。

「中国ビジネスフォーム印刷25強企業」

広東天章信息紙品有限公司、東港安全印刷股份有限公司、上海安興匯東紙業有限公司、恒宝股份有限公司、厦門安妮股份有限公司、上海伊諾尔印刷有限公司、浙江榮華印刷有限公司、艾迪美文化用品有限公司、金華盛紙業有限公司、福建鴻博印刷股份有限公司、天津環球磁卡股份有限公司、無錫雙龍信息紙有限公司、上海鐵路印刷有限公司、北京寶旺印刷有限公司、廣東地方稅務票証專業印刷中心、上海証券印刷有限公司、四川新財印刷有限公司、黑龍江省國家稅務局票証站、浙江郵電印刷股份有限公司、上海安全印刷有限公司、陝西中財印刷有限公司、上海市北印刷有限公司、深圳市東鵬印刷場、深圳中華商務安全印刷股份有限公司、江蘇鳳凰揚州鑫華印刷有限公司



中国BF印刷分会  
全景



中国BF印刷分会

## 協賛「JUNAIOワークショップ」を開催

東日本大震災の影響で開催を延期しておりました無料ARライセンスブラウザのJUNAIO (metaio社製品) のワークショップを、参加申込者の強い要望により、5月25日にサイバーネットシス

テム(株)と共同で開催した。

このワークショップには予定募集者を大きく上回り、会員のほか、モバイルのソフト開発企業なども加わり、会場一杯の40名以上が参加さ

れ、JUNAIOについての概要と海外事例の紹介をmetaio社の根本氏が、技術概論をサイバーネットシステム社の岩崎氏が話された。

ワークショップ開催後、受講された各社では様々な検討が行われており、印刷とインターネットを結ぶ重要なアイテムとして、AR(拡張現実)への



取り組みが本格化して来ることが期待される。本年9月には大阪に於いてもARについてのイベント協賛を予定している。

**metaio社**

2003年にドイツのミュンヘンに設立され、AR技術を活用したリアルで高品質な新しい3次元のインタラクティブ表現を可能とする開発ツールとソリューションを提供。欧州の主要な自動車メーカーやインテリア家具メーカー向け製造ライン設計シミュレーションシステムなど、多数の導入実績を持つ企業。

**Junaio**

metaio社がモバイル端末向けライセンスブラウザーとして一般ユーザー向けプラットフォーム。

## 平成 22年度版 市場調査報告書を発刊

市場調査委員会(大久保隆司委員長)では、毎年実施しております「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」平成22年度版を発刊致しました。

アンケートの各質問項目については、会員各社が置かれている状況を把握するために、「現状の課題について」より具体的な質問事項を設定し、各社での取り組み状況がより判り易く明示できるよう調査致しました。

各種調査からも日本の印刷市場は大きく縮小してはいるが、フォーム印刷業界はアウトソーシングの受け皿として、業務の中に取り込み拡大を図り売り上げを確保してきた。加盟各社も印刷だけに固執せず、制度改革や新しい動きを捉え、そこからビジネスチャンスを探して生き残りを模索している。こうした動きは中小企業が中心のフォーム業界にとっては、大変な苦勞であり、また冒険でもあった。

しかしながら、不況の長期化とペーパーレス化の動きは、我々フォーム業界の努力だけではどうしようもない局面になったことを、2010年度の調査は示唆している。

前回の調査時は20パーセント以上の売上げ増加、利益の伸長企業がそれなりにあったが、今回の調査では利益伸長企業もごくわずかで、売上げ、利益ともに4割近くの企業がマイナスになっている。これは劇的な変化であり、フォーム業界が初めて味わう苦悩である。

順調に伸長してきたデータプリントも2009年度から陰りが出てきており、データプリント関連のフォーム印刷の売上げは伸びが止まり、むしろマイナス傾向になってきている。

データプリント事業はフォーム業界の救世主とみていた時代からすると驚愕すべき大きな変化が見られる報告になった。

この調査報告が、今後の各社の経営戦略に少しでもお役立てればと願っている。

**「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」**

- ・本文 A4判 40ページ
  - ・価格 会員1,000円 一般2,000円(送料込)
- 購入はホームページからダウンロードし、事務局宛にファックスにてお申送ください。

**関東フォーム印刷工業会**

**平成23年度通常総会を開催**

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)は5月19日、目白・椿山荘「ソレイユ」に於いて平成23年度通常総会を開催した。

冒頭挨拶で瀬戸会長は「昨年度は年一回行われる持回り理事会を関東の主催で、箱根で開催し成功裏に終わり、さらに、この理事会での発表した取り組みを基に、各社でより具体的な活動に結び付け実績を上げている事は非常に良かった。

今年に入って東日本大震災の影響もあり、国際委員からの米国レポートからも判るように、印刷やビジネスフォーム自体が大きく変化している。このような市場状況ではあるが、関東地区での活動は連合会活動の要になっているので、一層の活動とご協力をお願い致します」と述べた。

挨拶の後 瀬戸会長が議長となり審議に移



挨拶する瀬戸良教会長

り、第1号議案「平成22年度事業報告並びに収支決算報告承認の件」、第2号議案「平成23年度事業計画案並びに収支予算案承認の件」、第3号議案「役員の一部改選の件」を審議し、いずれも満場一致で承認した。

変更の役員は次のとおりになります。

**新任 常任理事**

尾崎 修史(トッパン・フォームズ(株))

**退任 常任理事**

福嶋 賢一(トッパン・フォームズ(株))

総会後に開催した平成23年度第2回理事会においては、関東フォーム印刷工業会選出の岡田正明常任理事の退任により、理事候補として大久保隆司氏を推薦。

また、業務委員の牧信司氏、市場調査委員の岡田正明氏、福嶋賢一氏の3名の退任により、業務委員には川口政之氏、市場調査委員には大久保隆司氏と尾崎修史氏の各位が推薦され、全員一致をもって承認された。



**北海道フォーム印刷工業会**

**2011年度 総会及び懇親会を開催**

北海道フォーム印刷工業会(佐藤 泰光 会長)は、4月28日札幌グランドホテルに於いて2011年の総会及び懇親会を開催しました。総会への出席者は23名、懇親会へは22名の方々が出席されました。

冒頭、佐藤会長から東日本大震災の犠牲者に哀悼の意が述べられ、出席各社も震災に関して今後の影響を心配する中、いつもの総会と違った雰囲気で行われ、今年度は多少縮小気味な予算ではありますが、全て原案通り承認されました。

その後引き続き懇親会が行われ、特別会員の皆さんからは、用紙、インキ部品等の入荷が思うにまかせず、フォーム業界各社にご迷惑をおかけしているとの近況報告がありました。特に



新生紙パルプ商事の笹島営業部長様からは、震災後の用紙の入荷量・出荷量に関して説明があり、今後の見通しは予断を許さない状況であることを報告されました。この状況は仕入だけに留まらず、輸送のトラブルは、関西以南では荷動きが改善され、2桁の伸びを示しているとの事ですが、北海道ではここ数ヶ月この影響があるとのことで、各社はそれなりの覚悟を表明して、会はしめくられました。

東北フォーム印刷工業会

平成23年度定期総会と情報交換会を開催

東北フォーム印刷工業会(佐久間信幸会長)は5月24日、宮城県仙台市のウェスティンホテル仙台において予定通り平成23年度定期総会を行った。

仙台も震災の影響を大きく受けており、震災から2カ月を経過はしているが、総会の開催場所を確保するのが大変であった。総会には会員企業13社から代表者が出席され、定足数が満たされ、佐久間会長を議長にして議事に入り、す

べて原案通り可決承認を得終了した。

総会終了後、会員26名と来賓に専務理事の山口氏を招いて情報交換会を行った。

海の方に遠く目を向けると、津波の被害を受けた地が少し茶色に望むことができる会場の高層ホテルから、東日本大震災の被災地である東北に向けて「がんばろう!」のかけ声とともに、貴重な情報交換の場となった。



定期総会



情報交換会

中部フォーム印刷工業会

平成23年度定期総会と記念講演会を開催

中部フォーム印刷工業会(杉山悟会長)は、5月25日午後3時より、メルパルクNAGOYAで、平成23年度定期総会を開催した。総会では平成23年度役員変更報告・承認の件が上程され、松尾富正前会長の顧問就任、杉山理事の会長就任が報告、承認された。参加者は26名(委任状含む)。

総会の司会は熊谷憲泰理事が務め、水谷春三副会長の開会の辞に続き、杉山会長が挨拶に立ち、「先般の理事会で会長の大任を拝命しました」と報告。参加者に感謝の意を表した後、東日本大震災に言及し、犠牲者に哀悼の意を表するとともに、「被災された方々にお見舞い申し上げます」と述べた。杉山会長は東日本大震災に関連して、フォーム印刷業界にも大きな被害が出ていることから、「今後のいち早い復興に向け、日本フォーム印刷工業連合会とも協議、調整を行いつつ、業界として支援を行っていく必要があると判断しています」との認識を示した。さらに、日本フォーム印刷工業連合会の東北フォーム印刷工業会への緊急支援の呼びかけに応じて、「当工業会も地区強化支援費として、平成23年度収支予算より支出しました」と報告するとともに、東北フォーム印刷工業会から届いた支援費に対するお礼と総会開催を祝福する電報を紹介した。

次に杉山会長は日本経済にふれ、原油価格の高騰や内外の政治情勢の不安定などを起因として、「実態経済の回復はまだまだというのが、我々が実際に営業活動をしている場面において実感しているところです」と厳しい現状認識を示した。さらに電子媒体の伸展や一般書籍の市場縮小等により、将来における印刷業界の主たる原材料の紙の総量ベースでの縮小に危機感を表明した。

このような状況の中で、顧客のニーズは「従来の納期・品質・価格」にプラスして、安全衛生、



挨拶する杉山悟会長

環境対策、個人情報の保護、コンプライアンス、事業継続計画など、企業の姿勢や管理体制に関わる要素が求められていると指摘し「それら諸課題への緊急の対応も必要になっています」と強調した。今後、フォーム印刷業界が安定した経営を続けていくためには、財務面の強化、将来を見据えた人材育成、経営基盤の強化、ソリューション・プロバイダーとしての位置付けの明確化、新製品の開発・開拓、生産方式の合理化、新しい生産方法の導入、新しい市場や販路の開拓など、企業経営における確実かつ継続的なイノベーションが必要との見解を示した。

また、杉山会長は平成22年度研修会として実施した講演会(テーマ「電子書籍時代のクロスメディアビジネス」/講師・東京電機大学出版局局長・植村八潮氏)を踏まえ、電子メディアの台頭、通信網の整備、ソフトウェア開発の急速な進展などにより、「従来のように、紙にインキを乗せる業界の根幹」が問われていると指摘し、「いかに対応していくのか、業界として、また各社としてこれからの事業戦略の大きな課題になっています」と述べた。紙による信頼性とデジタルの速報性をどのようにコンビネーションするか、情報の蓄積と加工、価値の創出といった、キーワードを適確に読み取り、展開することによって、新しい市場の形成は不可能で

はないとの認識を示し、挨拶を次の言葉で締め括った。

「新たな取り組みを進めるために中部フォーム印刷工業会の役割を再認識し、厳しい外部環境であればこそ、会員各社と十分な情報交換を行い、上部団体である日本フォーム印刷工業連合会、地区工業会、各委員会との連携を図りつつ、国内及び海外市場動向、技術・経営動向、環境問題に関する情報提供を行い、各種講演会、セミナーを開催していきます」

この後、杉山会長を議長に選出して議案審議に入った。

平成22年度事業報告承認の件をはじめとする、上程された4議案はいずれも承認された。このうち、第3号議案の平成23年度役員変更報告・承認の件では、会長はじめ一部理事の変更が報告され、承認された。変更後の役員は次のとおり。

<平成23年度役員>

- 会 長 杉山悟 (小林クリエイト(株))
- 副会長 水谷春三(富士印刷(株))
- 理 事 伊藤民康(伊藤印刷(株))、熊谷憲泰((株)イセト)、伊藤則男(共同印刷(株))、白尾浩志(トキワ印刷(株))、内田聡(トッパン・フォームズ(株))、山中一((株)トヨトモ)、三枝栄一(小林クリエイト(株))
- 監 事 加藤薫(アコーダー・ビジネスフォーム(株))
- 顧 問 松尾富正(小林クリエイト(株))

総会は内田理事の閉会の辞をもって終了した。

なお、総会終了後、午後4時より、特別会員等を含めた70名の聴講参加により、記念講演会が開かれ、元プロ野球広島東洋カープ監督の達川光男氏が「達川光男の一球勝負！」のテーマで講演した。



講演する達川光男氏



総会の風景

関西フォーム印刷工業会

平成23年度定期総会を開催

関西フォーム印刷工業会(清水順市会長)は5月19日にJPビル(大阪中央区)において、平成23年度定期総会を開催した。

定期総会では、平成22年度の事業報告並びに収支決算報告が承認され、つづいて、平成23年度の

事業報告計画案並びに収支予算案が承認された。

冒頭、清水会長は「過度な価格競争はやめ適正利潤を確保して、元気な関西フォーム印刷工業会を構築しよう。さらに、見聞を広めるためにも、中国の印刷業界等の視察を兼ねた旅行を積極的に

企画したい」と宣言された。

毎年総会に併せて行っていた講演会と懇親会について、今年度は東日本大震災のために取り止め、その費用を東北フォーム印刷工業会への援助とすることとした。



関西フォーム印刷工業会

大阪支部4月度例会

大阪支部(溝口剛司支部長)は4月28日に20社(20名)が参加し4月度支部会を開催。関西フォーム印刷工業会からの報告の後、今回の震災で影響が出ている事柄を、各社ごとに発表で

きる範囲で発表し、情報の交換を行う。

その後開催した第26回プチ勉強会では、オリックス株式会社 大阪事業法人営業第一部 樋口剛正様を講師に迎え「今こそ役に立つ事業経費節約とキャッシュフロー改善」をテーマとして ①生命保険コストの見直し ②テレマティクスサービス(※車両1台毎に走行データを集積することで、これまでわからなかったドライバー個々の運行行動・特性を把握できるサービス) ③清掃・衛生コスト削減 ④電気料金削減 等について勉強した。



関西フォーム印刷工業会

大阪支部6月度例会

大阪支部(溝口剛司支部長)は6月30日に22社(25名)が参加し6月度支部会を開催。

関西フォーム印刷工業会からの報告の後、第27回プチ勉強会を開催。

講師の内外カーボンインキ株式会社課長の長谷謙治様から「対個人情報保護決定版 オンデマンド隠蔽ハガキ ポメカST(サーマル隠蔽ハガキ)」について聞いた。デモンストレーションもあり、サーマル隠蔽ハガキと専用のサーマルプリンタを用いて、小ロットで保護機能を持った同システムについて説明を受けた。



西中国フォーム印刷工業会

平成23年度総会を開催

西中国フォーム印刷工業会(灘 和憲会長)は5月27日午後6時よりメルパルク広島において平成23年度総会を開催した。総会の冒頭、灘会長から次のとおりご挨拶がありました。

「会員各位においてはご多忙の中、本総会に出席いただき有難うございます。3月11日に発生した東日本大震災で被災された東北地区の会員各位へ地区支援金として、日本フォーム印刷工業連合会を通して、西中国フォーム印刷工業会より10万円を支出したとの報告がありました。今後とも、会員相互による切磋琢磨とさらなる人間関係の育みにより、西中国フォーム印刷工業会の運営・発展に尽くしていきたいと考えていますので、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします」と述べた。

正会員11社(出席10社、委任状1社)出席のもと、議長に灘会長を指名して議事に入り、各議案について審議し承認された。

(1) 平成22年度事業報告・決算報告の件  
事務局より報告が行われ、決算報告に対して監事の吉岡康士民(大成印刷(株))から監査報告が行われ、全員がこれを議決し承認した。

(2) 平成23年度事業計画(案)・収支予算(案)承認の件  
同様に事務局から内容の説明が行われ、全員がこれを議決し承認した。

九州フォーム印刷工業会

平成23年度定期総会を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一郎会長)は5月24日、福岡八仙閣にて平成23年度定期総会を開催した。

定期総会では平成22年度の事業報告並びに収支決算報告、平成23年度の事業報告計画並びに収支予算案がそれぞれ承認された。

総会后、特別会員のメンバーを含めた23名で懇親会を開催した。

冒頭の挨拶で和田会長は「東北北関東の震災以来、初めての会合であります、この2ヶ月間、いろいろと考えさせられました。紙、イ

ンク、その他資材…。手配したものがあたりまえに調達できることへの日頃の感謝が足りなかった! この業界を取り巻く皆様方(お客様、仕入先様)の存在に日頃から感謝をしながら接しなければいけない!と感じました。この場をお借りして皆様方への感謝の御礼をしたいと思います」と挨拶した。

懇親会では永年、九州工業会の役員を勤められた方や転勤で九州を後にする方々を交えながら会員相互の懇親を深めた。

国際委員会

■北米印刷事情レポート(2011年4月~6月)

米国印刷業界とメディアの未来

インフラとしての輪転印刷技術

印刷の発明というとグーテンベルグの名前が挙がるが、印刷が本領を発揮するのは工業化社会に突入した1843年、ニューヨークのRichard March Hoe氏によって発明された輪転印刷機です。この輪転印刷機の出現で印刷物のマス生産が可能となり、重要な情報伝達のインフラ技術となった。この技術によって新聞、雑誌、出版、印刷業界など巨大メディア産業が形成されることとなった。発明直後の1850年当時、新聞発行部数は2,500程度であったが、1890年代になると発行部数100万部の新聞も誕生し、印刷は情報の伝達手段として極めて効率の高いインフラ技術となった。

米国におけるビジネスフォームの生みの親であるSamuel J. Moore氏も、1899年にニューハンプシャー州にあったKidder Press社を買収し、輪転印刷技術によりビジネスフォームの大量生産を開始した。

印刷産業は輪転印刷技術を核として周囲には様々なビジネスが立ち上がり100年以上繁栄し続けたが、パラダイムシフトが20世紀末に訪れて、今日ではインターネットというインフラ技術の周辺で多くの富が築かれている。

新聞輪転機によって、San Francisco Examiner紙を発行したWilliam Hearst氏(創立時24歳)や、Moore Business Forms社を創立したSamuel J. Moore氏(創立時23歳)など、ベンチャー魂にあふれた若者達であると同様に、Facebook創立者のMark Zuckerberg氏(現在26歳)、Google創立者のLarry Page氏とSergey Brin氏(創立時25歳)、さらにYahoo!創立者のJerry Yang氏(創立時26歳)とDavid Filo氏(創立時28歳)など、時代とインフラ技術は違うが若者達であることは共通している。

しかし、今、米国印刷業界の経営者の平均年齢は何歳であろうか。

既に戦争は終わっている

21世紀に入り、情報伝達の「手段」にパラダイムシフトが起き、大量生産大量消費を前提とした輪転印刷というインフラ技術から、インターネットという新しいインフラ技術に情報の流れが大きく変わった。「ネット」対「印刷」の戦争は既に終わっているとJoe Webb博士はいう。

米国の印刷企業は、「変遷する印刷業界」と自分らを呼んだが、鉄砲の弾を一発も撃たずにインターネットに負けてしまった感がある。1990年代後半にインターネットが登場したころ、印刷業界の関係者は、一時的なブームとして軽視して、業界への影響は限定的と判断した。そして、2002年にITバブルが弾けた時には、「ブームに踊らされなかった自分達は正しかった」と安堵していたが、しかし、インターネットはその後も益々発展し続けて、その勢力がとてつもない大きなものになって行った。

印刷業界は、自分たちが置かれていた状況をまったく把握していなく、あまりにも不勉強で、ゼロから学ぶ姿勢が必要だとJoe Webb博士は語る。現在、アメリカパブリックリレーションズ協会(PRSA)などネット系メディアの業界団体に加入している印刷業者は一社もない。

メディアの変化を認識する

情報の伝達手段は、Push(押す)、Collaborative(相互的)、Pull(引く)の3つに分類され、マルチメディア時代が到来し、各手段で種類が飛躍的に増加した。(表1 次のページ)

インターネットが登場する20世紀末までは、情報の伝達手段はオフラインしかなかった。しかし、95年にネットインフラ技術が登場するとその周辺に検索エンジン、eメール、掲示板、ブログなどさまざまな情報伝達手段が登場する。そして2007年代になるとモバイルインフラ技術が加わり、スマートフォンを中心に、ローケー

表1 1995年～2010年メディアの種類の拡大

	オフラインインフラ	オンラインインフラ	モバイルインフラ
Push (押す)	雑誌、看板、POP、テレビ、ラジオ、景品、広報、DM、講演、スポンサー、テレマーケティング	Eメールキャンペーン、バナー広告、検索連動型広告、デジタルサイネージ	Eメール、SMS (short message service)、MMS (画像音声動画も配信)
Collaborative (相互的)	協会、団体、イベント、セミナー、トレーニング、ディーラー、営業担当者、市場調査、ユーザーグループ、コールセンター	ソーシャルネット、掲示板、ブログ、電子商取引、オンラインビデオ、市場調査、チャット、デジタルサイネージ	モバイルソーシャルメディア、モバイルIPフォンアプリ、NFC (近距離通信)
Pull (引く)	展示会、電話帳、口コミ、ブランド、評判、フリーダイヤル	ウェブサイト、検索サイト、ダウンロード、フリーウェア	位置情報検索サービス、モバイル検索サイト、NFC (近距離通信)

1995 年代
2005 年代
2010 年代

出典：Disrupting the Future

ションサービス、決済、M2M (機器間をつなぐIPネットワーク)などが多数登場した。このインフラ技術を活用した新ソーシャルサービスのFoursquare (本年2月に日本語化)やGowallaなどが、次のYahoo!、Google、Facebookになる可能性もある。

印刷企業の多くは、自分らをコミュニケーション産業の一員と言いつつ、実際は、印刷物をより多く売って稼ぐことに終始し、印刷物が情報の伝達においてどのような役割を果たしているかをあまり考えていない。印刷物がオフライン、オンライン、モバイルの領域の中で、Push (押す)、Collaborative (相互的)、Pull (引く)の各シーンにおいてどのように使われて、どの立ち位置にあるかを認識することが、コミュニケーションカンパニーへの脱却の第一歩となると思う。

### 旧来のバリューチェーンからの脱却

マルチメディア時代になる前のコンテンツ流通中間業者は、出版業者、広告代理店、放送業者などが主役であった。彼らは、作家、制作会社、企業などのコンテンツクリエイターが伝えたいメッセージやコンセプトを、いかに大衆に伝えていくかをビジネスとしていた。

印刷業界も、コンテンツ流通のバリューチェーン (価値連鎖)の中で、重要なプレイヤーであ

るが、「コンテンツの内容に携わる」という意味では主役とはいえない。

印刷設備は資本集約的であるため、1社の出版社や広告代理店が印刷設備を導入には重すぎる。そこで印刷企業は彼らに代わって、大きな資本を投下し印刷機を導入して、書籍、チラシ、ポスター、ビジネスフォームなど、インクと紙で作られたコンテンツの器というハードを、大量に作るアウトソーシングビジネスをしている。

いつの時代もそうだが中間業者が儲かるビジネスが多い。金融業界、商社、出版、放送業界は、設備投資や労働力をさほど必要としないため、製造業より利益率が高い。例えば、日本の出版業界のマージンの取り分は、取次8%、書店22%、約70%が出版社と、出版社が儲かる構図になっている。しかし、サービス業をはじめとする中間業者は消費者に利便性を創造し、付加価値を提供する重要なビジネスであり、消費者や世の中に役立っていることも忘れてはならない。

今、広告代理店や出版社など旧来のコンテンツ流通中間業者が、印刷業界同様、ニューメディアの登場で、厳しい戦いを強いられている。米国の出版業界については、ここ10年間160億ドル前後の横ばいを維持していて意外に健闘している。出版社が著作権を作者から取得するため、

コンテンツのマルチメディア展開が容易であるからだ。しかし、Amazonなどが、直接作家などコンテンツクリエイターと契約する動きも見られ、今後出版業界が中抜きになってしまう恐れがある。

旧来メディアのバリューチェーンの中にある印刷業者は、このような変貌期だからこそ、雁字搦めになっている旧来のバリューチェーンから脱却し「コンテンツ流通中間業者」になりえるチャンスもある。

マルチメディア時代の印刷の立ち位置を考え、モノ作りから、コトづくりの発想を身につけ、ハードとコンテンツ流通中間業者両方に軸足を置いたプラットフォームビジネスを展開できる。

### 従来メディアの逆襲か、それとも焦りか

米国の印刷業界の市場動向調査を読むと、いかに業界が大変な状況にあるかを伝えているだけで、その理由を「テクノロジーの影響」と簡単に片付けているだけである。印刷業界を取り巻く周辺で何が起きていて、それらがどのような影響をあたえているかの説明がほとんどない。IBFI (旧米国BF印刷同業者組合)の会合でも、生産品種が減少していく表を見せ付けられるだけで「テクノロジーの影響」と簡単に片付けていた。失われたビジネスフォームがどこへ流れていったかの説明もなく、業界全体が悩んだまま団体が消滅してしまった。コンサルタントのIvars Sarkans氏はPIA (米国印刷産業協会)の最近のレポートについて「印刷業者の未来像を提唱しているが、成功している印刷業者を纏めただけであって、新鮮味がまったく感じられない」と語っている。

Webb博士の著書Disrupting the Futureの影響を受けたのか判らないが、今まで業界再編を中核とした買収戦略をとってきた大手印刷企業も、昨年末からその方針を急転換させ、Nimble Fish Technologies、8Toches、Journalism Onlineなどニューメディア系ベンチャー企業を立て続けに買収した。

・2010年6月にHearst社が、デジタルエージェンシーのiCrossingを3億2500万ドルで買収。Hearst社のコンテンツクリエイターネットワークを活用して、検索、ソーシャル、ポータルマーケットにコンテンツを提供していくことが戦略。

・2010年7月Meredith社がモバイルマーケティングのHyperfactoryを買収。

・2011年1月Penton Media社がデジタルエージェンシーのEye Trafficを買収。

・2011年5月Random House社が電子書籍に特化したデジタルエージェンシーのSmashing Ideasを買収。

・その他、買収ではないが、2011年1月にHuffington Post社、4月にDow Jones社などがそれぞれニューメディア事業を設立。

これらの一連の動きは、従来メディアの逆襲というよりか、焦りにも見える。Custom Contents CouncilとContents Wise誌が行った「第11回Content Industry Study」の調査によると、2010年のカスタムコンテンツのメディアチャンネルとして印刷が依然としてトップで、その規模は240億ドルであった。しかし、ニューメディア向けのカスタムコンテンツは、調査開始からたった10年で125億ドル規模に拡大し、印刷メディア向けのコンテンツ領域を急速に侵食しているという。

100年以上かけて築きあげた牙城が、崩れ去っていくのを目前に当惑している印刷業界だが、クライアントもまったく同じ状況にある。次々と登場してくるニューメディアに圧倒され、それに対応するためのノウハウもリソースも持ち合わせていない。

そこで、印刷業界がコミュニケーションサービスとして、その課題を解消するソリューションを提供する大きなビジネスチャンスがあると思う。

### Vision 3 Summitが目指すコミュニケーションサービスプロバイダとは

今年3月13日～16日カリフォルニア州のパ

ームスプリングスで、PIA (Printing Industry of America)、NAPL (National Association of Printing Leadership)、NPES (The Association for Suppliers of Printing, Publishing, and Converting Technologies)という米国印刷業界3大団体が合同で442人の経営幹部が結集して「Vision 3 Summit」を開催した。

このような合同会議は前例がなく、印刷業界が一丸となり、危機的な現状を乗り越えるため、業界全体の英知を結集する場をつくるのが目的であった。

今回のテーマは「今日、経済、文化、技術など複合的な要因により、市場が劇的に変化している。印刷業界は、その現実から乖離していることを認識し、緊急にインタグレートドクロスメディアコミュニケーションサービスプロバイダーに変革すべきである」。

このテーマをベースに、印刷業界の機器、ソフト、製紙業者、印刷業者、エコノミストなどが集まり議論が展開された。その結論を要約すると以下の通りとなる。

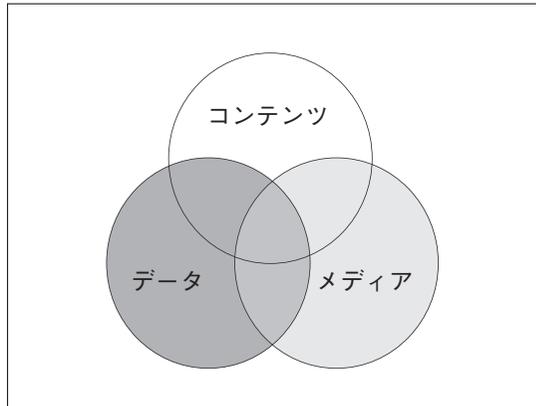
消費者は、自分のライフスタイルと一致したターゲット化されたコミュニケーションを求めている。加えて、複数のメディアを通じてシームレスかつ連動された情報を入手することを求めている。

印刷業界は、大量に固定イメージを印刷するビジネスから、個人へターゲットされたコンテンツを他のメディアと統合させながら提供するビジネスに変革しなくてはならない。

そのためには、現状の大量に生産するためのワークフローを大幅に変えないといけない。また、印刷業者の多くは、コンセプト、戦略、コンテンツ作成に携わる立場になく、経験も浅い弱みも持っているため、それを克服しないといけない。

そのためには、印刷業者は、ワークフローの範囲を広げ、バリューチェーンの上流と下流両方に業態を広げなくてはならない。

コミュニケーションサービスプロバイダーの3要素



上流の拡大には、コンテンツが作成される段階からの戦略的アドバイザーになる必要がある。下流では、ウェブ、モバイル、eメールなど複数のメディアチャンネルにコンテンツを連動させながら展開させていく必要がある。

変革の中核の3要素は「コンテンツ管理」。二つ目は「データ管理」。三つ目は「メディア管理」である。

戦略的アドバイザーになるためには、顧客のニーズを把握することができるデータとコンテンツを手にして、最適なメディアを提供しなければその役割を果たせない。

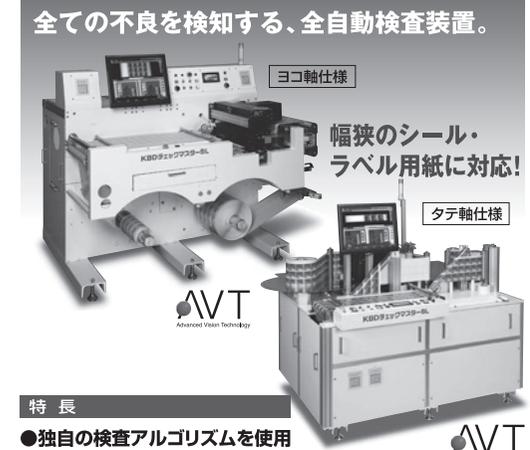
参加者のほとんどが、印刷業界の新しい自社の強みとして、コンテンツ管理、データ処理、そして、メディア管理能力の強化を主張していた。

これらは、言うは簡単だが、実行となるとかなり難しく、新たな人材、プロセス、技術、ノウハウなどを導入しなくてはならない。

「クライアント企業が抱えているコンテンツ、データ、メディアにまつわる問題を解決するソリューションを提供していくのがコミュニケーションサービスプロバイダ」というビジョンを印刷業界が一丸となり求めて行きたい。

## シール・ラベル用全自動検査装置 KBDチェックマスター-SL

ヨコ軸仕様 タテ軸仕様



- 特長
- 独自の検査アルゴリズムを使用
  - 簡単操作
  - 様々な印刷物にも検知対応
  - プリントフロー（検査結果と履歴の保存機能）

印刷機材の総合商社 **株式会社 光文堂**

<http://www.kobundo.co.jp>

本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052(331)4111(代)  
支社/東京 支店/東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所/北海道・青森・山形  
千葉・山梨・沼津・浜松・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄

KOBUNDO

## インキ練りローラー自動洗浄装置 KBDローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、資源の節約を極める

印刷機の稼働率を大幅アップ



## インキカラーコントロールシステム KBDマイクロカラー-SL

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で使いやすくなって、新機能も追加!

インキカラーコントロールがグッと身近に。

ニュータイプ登場!!



# NPiフォーム NEXT-IJ



## 次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS 事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

■ NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m <sup>2</sup> )	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。



日本製紙株式会社 情報・産業用紙営業本部 情報用紙一部  
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel. (03) 6665-1042

NEXT-IJ 品質概要



21世紀の情報記録を  
サポートします。

## 三菱情報記録用紙

三菱 NGR 新タイプ 三菱 IJ フォーム用紙 DF カラー M・G  
ダイヤフォーム ダイヤメールシリーズ OCR用紙 感熱紙

**三菱製紙株式会社** 洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎03(3213)3732  
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎06(6271)4455

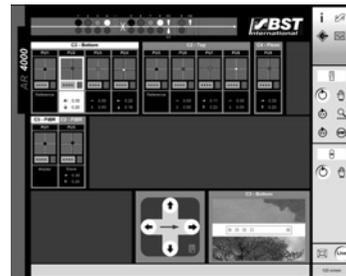
**三菱製紙販売株式会社** 名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22 名古屋ダイヤビル ☎052(563)7561  
本店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎03(3566)2341 東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎022(295)7710  
大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎06(6271)2271 九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎092(771)1531

## ビジネスフォーム印刷用 BST自動見当装置システム

### プロセスカラーの見当合わせ時間の短縮に最適！

#### ■ 採用のメリット！！

- ・各オーダ及びオーダプロフィールのデータ管理！
- ・ロット量にかかわらず始かり時間の大幅短縮！
- ・オペレータの技量を選ばないシステム！
- ・手動操作に対して大幅な損紙の軽減！
- ・印刷スピードの大幅アップ！
- ・大幅な損紙の軽減



### ABSTビーエスティ日本株式会社

東京営業所 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪411号室 TEL: 03-5798-7805 FAX: 03-5798-7806  
本社 〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-10-9 箕面プレーベルビル3階 TEL: 072-727-4704 FAX: 072-727-4914  
大阪工場 〒594-0062 大阪府和泉市寺田町3-1-27 TEL: 0725-44-9930 FAX: 0725-44-9931

フルカラーデジタル印刷機

# Xeikon 8000

ユーザーの声：

**スピード  
品質  
稼働率**

品質に厳しい流通業界のDMを6日間で600万ページ印刷するために、  
「この3つの基準で満足させてくれたのがXeikon 8000でした。」



主な仕様  
印刷方式： 電子写真方式  
色数： 4C/4Cもしくは5C/5C  
印刷スピード： 最大260ppm(19.2mpm)  
解像度： 1200dpi  
対応用紙： 上質、コート、マット  
320mm~512mm幅  
40gsm~250gsm

#### ユーザー紹介

Parajett AB (パラジェット) 社

<http://www.parajett.se>

1904年スウェーデンに設立した総合印刷会社。オフセット印刷、デジタル印刷を含むIT技術を駆使して、顧客毎に最適なコミュニケーションのためのソリューションを提供。

このたびの東北地方太平洋地震におきまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災された皆様、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

販売代理店

**サカタインクス株式会社** 事業開発推進本部

大阪本社 550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37  
TEL05-6447-5874 FAX06-6447-5839  
東京本社 112-0004 東京都文京区後楽1-4-25(日教販ビル)  
TEL03-5689-6674 FAX03-5689-6633

ホームページアドレス <http://www.inx.co.jp>